

新規事業採択時評価結果（平成25年度新規事業化箇所）

担当課：道路局環境安全課
担当課長名：増田 博行

事業の概要

事業名	地域高規格道路 都城志布志道路 一般県道飯野松山都城線 金御岳工区	事業区分	地方道	事業主体	宮崎県
起終点	宮崎県 都城市 梅北町 ～ 宮崎県 都城市 梅北町	延長	2.9 km		
事業概要 都城志布志道路は、九州縦貫自動車道と重要港湾である志布志港とを連絡する地域高規格道路。 飯野松山都城線金御岳工区は、都城志布志道路の一部を構成し、現在事業中の梅北工区と一体となって、志布志港から我が国有数の農畜産地帯である都城地域へ搬送される飼料等の物流を支えるとともに、両地域の連携の強化に寄与する自動車専用道路。					
事業の目的、必要性 飯野松山都城線 金御岳工区は、 <ul style="list-style-type: none"> 志布志港からの物流の効率化 都城市と志布志市との連携強化 現道の沿道環境の改善 等に資する道路である。					
全体事業費	48億円		計画交通量	12,600台/日	
事業概要図 					

関係する地方公共団体等の意見
 都城市など沿線自治体で構成される都城志布志道路建設促進協議会より、都城志布志道路の早期整備を要望されている。

学識経験者等の第三者委員会の意見
 宮崎県公共事業評価委員会が新規事業化は妥当である。

事業採択の前提条件
 便益が費用を上回っている。
 沿線自治体だけでなく、民間団体等で構成される都城志布志道路早期完成促進民間協議会からも早期整備の要望を受けており、円滑な事業執行が可能な環境が整っている。

事業評価結果

費用対便益	B/C	2.0	総費用：77億円 （事業費：75億円 維持管理費：2億円）	総便益：157億円 （走行時間短縮便益：118億円 走行費用減少便益：20億円 交通事故減少便益：19億円）	基準年 平成24年
	感度分析の結果	交通量変動	B/C=1.9 (交通量 -10%)	B/C=2.3 (交通量 +10%)	
		事業費変動	B/C=1.9 (事業費 +10%)	B/C=2.3 (事業費 -10%)	
		事業期間変動	B/C=2.0 (事業期間 +20%)	B/C=2.1 (事業期間 -20%)	
事業の影響	自動車や歩行者への影響	評価項目	評価	根拠	
		渋滞対策	○	通過交通の排除や流入交通の分散が図られ、渋滞の緩和が見込まれる。 【渋滞損失時間の改善】 並行区間：約6.0万人時間/年 削減量：約5.9万人時間/年（約6.0万人時間/年→約0.1万人時間/年）	
		事故対策	○	現道の交通量（特に大型車）が減少し、交通事故の減少が見込まれる。 【死傷事故率】約125件/億台キロ（現況区間最大値） [県内平均の死傷事故率104件/億台キロ（約1.2倍）] 【その他の特徴】大型車混入率が22.0%と高い [県平均の大型車混入率12.0%の約2倍]	
	社会全体への影響	歩行空間	-		
		住民生活	○	第2次救急医療施設「都城市郡医師会病院」へのアクセス向上	
		地域経済	◎	重要港湾へのアクセス向上 （九州縦貫自動車道都城IC～志布志港の所要時間：約60分→約40分（20分の短縮））	
		災害	○	第1次緊急輸送道路の機能強化	
環境	-				
地域社会	◎	都城市・志布志市間の交流・連携の促進（所要時間：約60分→約40分）			
事業実施環境	○	・宮崎県総合長期計画への位置づけ（広域交通ネットワークづくりの推進） ・都城市総合計画への位置づけ（地域高規格道路「都城志布志道路」の早期完成の促進） ・沿線自治体で構成される都城志布志道路建設促進協議会等から早期完成を要望されている。			

採択の理由

事業主体である宮崎県が実施した評価に基づけば、費用対便益が2.0と便益が費用を上回っており、事業採択の前提条件が確認できる。
 また、港湾や高次医療施設へのアクセス向上、緊急輸送道路の機能強化が図られるなど、当該事業の整備の必要性、効果は高いものと判断される。
 以上により、本事業を平成25年度新規事業箇所として妥当であると考えられる。

※総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。